

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後75年(七十六)

第3章 アラーの恵み―石油ブームの到来(十三)

七十六 富の分け前を求めて湾岸産油国に殺到する出稼ぎ(一一四)



1960年代は石油の消費量が急激に増加した結果、中東の産油国に石油開発ラッシュが巻き起こった。OPECの資料によればサウジアラビア、クウェイトおよびイラクの1960年と1970年の生産量は、サウジアラビアが百三十万B/Dから三百八十万B/Dへ二・九倍に増加、クウェイトは百七十万B/Dから一・八倍の三百万B/Dに、そしてイラクも九十七万B/Dから百五十五万B/Dに増えている。

生産量が増加すれば歳入も増え各国の財政は急激に豊かになった。各国の支配者たちがそれを自分とそ一族の懐に入れたのは当然であるが、それでもなお有り余る豊かなオイルマネーはインフラの整備、教育・医療の改善など国家の近代化に注ぎ込まれた。石油発見以前のサウジアラビアとクウェイトは極めて貧しく、教育や医療が全く行き渡らない前近代社会であったが、一気に近代国家に衣替えし始めたのである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: Arehakahazuyal@gmail.com